



◆ アイヌ文化のことをもっとも話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。
◆



今月のテーマ

サラニフ(編み袋)

本田優子(札幌大学教授)



サ

サラニフは編み袋のこと。昔からアイヌ社会で使
われてきた生活必需品です。材料は丈夫なシ
ナノキの内皮が多いけど、オヒョウの木の内皮やイラ
クサなど草の繊維で作られているものもありますね。
繊維を煮てから編んだものが多いけど、中には生のシ
ナ皮じゃないと作れないものもあったりして、バラエ
ティに富んでいます。

編み方にも種類があつて、私
がかつて暮らしていた二風谷周
辺では、ゴザを編むのと同じよ
うに編み台を使って編むタイプ
の袋が多かつたように思うの。
理由として、この地域ではアイ
ヌ土産物ブームの時期に手早く
作れるこのタイプが量産される
ようになったからだとする研究
があり、うなずけます。他の地
方では道具を使わず、まずサラ
ニフの底を編み、それを吊り下
げて底から口の方へ編み下ろすタイプのもが多いみ
たい。二風谷でチエオシケサラニフと呼ばれるこの袋で
思い浮かぶのは、ケナシウナラベ(木原のおば)という妖
怪。チエオシケサラニフを被ったようなザンバラ髪だけ
ど、垂れ下がっている前髪の下に隠れている顔を見ると
絶世の美女って話もある。ソノゾクするでしょ。



イラスト/ 莊田悠人

学生、特に女の子たちはサラニフを「おしゃれ、かわい
い！」って言うんだけど、手が込んでる分、普段使いにす
るには結構お値段がはるのよね。私が持つてる大小いく
つかのサラニフもあくまでも学習資料で、普段はもった
いなくて使えません。でも、旭川の故・杉村京子さんのオ
オウバユリ掘りの映像では、掘った鱗茎をサラニフに入
れ、そのまま川の中で「ソシソシ」
すつて泥を落としてるのです。た
しかにシナノキの繊維は水に強
いし、道具は使つてこそ価値があ
るんだけど、あの高価なサラニフ
で……ってハラハラしちゃつ。

もう一つ忘れられないのは、故
長野^{ながの}ちえ子^{ちえこ}さんとキノコ採りに
行った時のこと。キノコを入れる
ために私が持つていったレジ袋
(当時は今ほどNGじゃなかつ
た)を見て、普段は温和なちえ
子さんが怒つたの。「キノコは粉
を落として、その粉で増えていくものなの。その袋、粉落
ちるかい?!」。ちえ子さんが持つてたのは、隙間から胞
子をたくさん落とせるサラニフでした。キノコを採る時
にも次の世代のことを考えてるんだ…。アイヌ文化の神
髄に触れた思いでした。「キノコ採りにはサラニフでー!」。
SDGsに連動したムーブメントにならないかしら。



次回のテーマは「アマッコ(仕掛け弓)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」



イランカラプテ
「ごんにはち」からはじめる。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。